

白馬岳主稜

アルパインクライミング

2022年05月03日(月), 4日(火)

L: 坂野、杉山、桐林、宮本 記

5月3日早朝、猿倉山荘の駐車場に到着した。駐車場はそこそ一杯になっていた。AM6:00くらいに出発。昨年5月も猿倉の駐車場スタートで春スキー山行をしていたので、何となく記憶がよみが出る。昨年の白馬大雪渓は谷の入り口に車サイズのデブリがゴロゴロしていてスキー登高が出来なかった。今年は大きなデブリもない様子だ。

尾根のとりつきから急登だったが、荷物が軽いお陰で何とか歩ける。リーダーからザックのダメ出しを食らい、パタゴニアのアルパインザックを借りての山行。とにかく軽量化を図り、象足やら、冬用シュラフは封印。スリーシーズンのシュラフ、ペラペラな合羽で挑んだ。共同装備も持たず、何とも申し訳ない気持ちいっぱいであるが、重い荷物でただでさえ遅い足がもっと遅くなるのはもっと問題だ。メンバーに感謝。

ゴールデンウィークただ中、結構な数のパーティーが登っている。天候にも恵まれているからだろう。途中、道を譲っ

て先に進ませてくれた2人組はガイドらしき人と年配の女性で、一日で白馬主稜を抜ける予定と聞いてびっくりする。おしゃべりが止まらない女性は関西弁だった。一日で抜けるのに道を譲っていて大丈夫なのだろうと思った。

しばらく進むと尾根は細くなり、まるで解けかけのアイスクリームがコーンからはみ出しているかのような雪庇があちこちに見えた。白と青白い影のコントラストが凸凹を強調していて、芸術的だった。ところどころアイゼンをけり込み、ピックを差し込んで登るところや、木の根をつかんでよじ登るところもあったが、天候もよく、風も穏やかだから楽しい。13時前には2,400メートル以上に達したので良さそうな場所にテントを張った。まだ日も高く、気温も高いので外で宴会が始まった。銘々おつまみを取り出し、食べたり飲んだりして楽しんだ。私は軽量化に努めたので、100mlのビールをちびちび飲んでいたが、隣で桐林さんが「仏壇にお供えするビールだ」と揶

揃した。

夜ご飯は、リーダーが用意したパスタで、鍋も小さいから一度に茹でず、わんこそば形式に一人前を4等分しながら茹でては食べ、茹でては食べを繰り返した。即席のパスタソースが意外においしいことに気づいた。翌朝は2:00起きとのことだったので20:00前に就寝。外はかなりの強風だったようで、時折すごい音がした。シュラフも薄くて寒く、しばらく震えていたら、あまり寒くなくなって寝てしまった。

翌日はまだ薄暗い中スタート。昨日のうちに抜けてしまった人たちが付けたトレースを踏みながら進む。雪が締まっていて歩きやすい。暫くして、後方を振り返ると朝日が昇っていた。



こんな素晴らしい天候に恵まれ、美しい景色を眺めながら山を登っている幸福をしみじみと味わった。歩いてきたトレースのついた尾根は、東に向かって伸びて

おり、ボコボコとしていて、生き物のような躍動感がある。



最後の登りは斜度が60度~65度の急登で、60mのロープを出してもらった。杉山さんがリードで登り、上で確保してくれた。後続パーティーも来ていたため、できる限り急いだ。次第に風が強くなり、暴風状態の中、時折風が弱まるときに登るのを繰り返した。雪庇は無く、少し張り出している程度の最後の壁をよじ登り、登頂。暴風の中、杉山さんがスタンディングアックスビレイをバッチリ決めていた。



その後、後続パーティのおじさんが登ってきた。確保するためにピッケルを雪面に打ち込んでいたが、どうも要領が得ない様子で、ピッケルが斜めになったり、抜けたりしていた。技量のあるグループのメンバーでよかったなと思った。

皆で白馬岳の頂上標識まで進み登頂を喜んだ。桐林流に従ってお互いに握手した。登ってみたかった白馬主稜に登れて、喜びがこみ上げた。

帰りは、大雪渓を降りた。こちらはスキー登高している人や、登山客で賑わっている。気温もかなり高くなり雪がべとべとで、アイゼンは花魁の高下駄状態になった。尻もちをつきながら、ノロノロ歩きになってしまった。

早く下山できたので、ラッピーとカモシカに寄って帰路に就く。3月にミレーのザックをかったばかりだったのにカモシカでアルパインザックを買ってしまった。軽量化は大切だと思った。